OISA NEWS

OITA INFORMATION SERVICE INDUSTRY ASSOCIATION

2014. 4
62

発　行：大分県情報サービス産業協会
会長　森　秀文
http://www.oisa.jp
編　集：広報委員会
事務局：大分市城崎町2-6-31
（大銀コンピュータサービス㈱内）
TEL（097）537-5918
FAX（097）534-4545
印　刷：佐伯印刷株式会社

大分県情報サービス産業協会

大分市西新地

CONTENTS

平成25年度 新年例会 ―― 2
新年ご挨拶 ―― 3
平成25年度 特別講演会 ―― 4
社会貢献活動（別府大分毎日マラソン）― 6
平成25年度 第2回視察研修旅行 ―― 7
大分トリニータ応援歌贈呈式 ―― 8
フレッシュさん紹介 ―― 8

平成25年度
大分県情報サービス産業協会 新年例会開催

森　秀文 会長

新年祝賀会＜尾渡秀成理事挨拶＞

平成25年度の新年例会が、１月22日（水）に大分市のトキハ会館にて、ご来賓並びに会員企業の皆様多数ご出席の中、盛大に開催されました。

まず、最初に森会長より新年のご挨拶がありました。

ご来賓の方々と関係機関及び団体への平素のお礼に続き、最近の業界のトレンドを表すキーワードについて、年末の流行語大賞候補に、「ネット選挙」「マイナンバー制度」「ビッグデータ」というIT、ICTに関する言葉がノミネートされていたこと、また直近のキーワードとして、「WindowsXPのサポート終了」や「消費税増税」があるが、「消費税」についてもIT関連の言葉が近年になく使われており、IT、ICTが業界の業界横断的なインフラ産業として定着していることの表れではないかという所見を述べられました。

また、景気については、アベノミクス進捗状況や日経30業種による「産業天気図」において、ITの関連業種は比較的景況感が良いので、我々は景況感だけでなく実感としてその効果が感じられるよう、取り組む必要があるとのお話がありました。

引き続き、大分市長・釘宮磐様、九州経済産業局情報政策課長・田志招則様からのご挨拶を頂戴し、特別講演会へと移りました。本年は、一般社団法人大分学研究会代表理事の楢本譲司様から「瀬戸内を活かしてきた大分の先人たち」という演題でご講演をいただきました。

その後会場を移し、尾渡理事の乾杯のご発声と共に新年祝賀会が開催されました。なごやかな歓談を経て、最後に当協会の小田理事によるご挨拶をもって、めでたく終了いたしました。

＜懇親会風景＞

＜小田　均理事挨拶＞

新年ご挨拶

大分市長
釘宮　　磐 様

皆さん、あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

森会長はじめ、皆さんには、私共行政のさまざまな意味でご支援をいただいております。この場を借りて、感謝とお礼を申し上げたいと思います。

情報分野は、私共もなかなかついていけない分野であります。どちらかと言うと職員にしっかりと任せているわけですけれども、時折頼るがあまりに検証がしっかりできずにミスを犯してしまうことがあり、そのことが市民に対して大きな不信感を招くということにもなりかねないわけであります。皆さんには是非、様々な意味で今後共、ご指導をいただきたいと思っています。

先ほど、森会長のお話にもありましたが、「マイナンバー制度」がいよいよ法律が通り、社会保障と税に関する個人番号が、ついにスタートを切るわけであります。このことによって、私共の行政サービスというものはさらに効率化、またサービスの多様化が出来るわけですが、それにも増して、それぞれの市町村が独自のサービスを広げることが出来るということであります。そういう面では皆さんの行政に対する貢献分野はさらに広がってくるのではと思っています。

また最近、SNSによる都市間の様々な情報発信が競争の中にさらされているという事を実感しています。昨年は私共も、本市の観光大使でもある指原莉乃さんが、AKB48のセンターを初めて務めた曲、「恋するフォーチュンクッキー」の大分市バージョンというものを作りましたところ、アクセス数が100万件に届く勢いで、これには私も本当にびっくりしました。それと同時に、私共が今まで行政情報を発信していた人達には、このバージョンはほとんど見られていないという事にも驚きました。

要するに、我々が行政情報をいかに満遍なく市民に提供する、ましてや県外や世界に向けて発信していくためには、TwitterやFacebookまたはYouTube等を利用することが必要であるということを改めて知った１年でもありました。

今、県の顔づくりということで、駅周辺が大きく変わっています。昨年は駅の南側、かつては裏駅と言われたこの地に、文化ホールや図書館などの複合の施設「ホルトホール大分」を作りました。なんと１日に平均6,000人を超す人達が利用していただいてます。また、南の方に向けて緑の芝生で作られました駅前のシンボルロードも、市民の皆さんが様々なパフォーマンスを行い集う場として、大いに利用をしていただいておりまして、今やかつての裏駅が、大分では一番光り輝いています。

いよいよ、今年は駅ビルがその姿を現しまして、来年の３月には完成します。併せて、駅前広場が大きく変わる工事も来年の３月には完成をいたします。そして、このオアシスタワーホテルの北側には、県立美術館ができますので、南の大分市美術館から北の県立美術館までの間をアートで結ぶ、そして回遊できる歩いて楽しい町、こういうものを今目指して整備を進めているところです。

私は是非、この大分のまちが、従来の車中心の社会から人中心の社会へと転換する「人を大事にするまち」として、次の世代にしっかりと引き継いでいきたいと考えています。そういう意味では、大分市も今、大きく進化をしようとしていますので、皆さんと共に頑張っていきたいと思います。

結びに、皆さんのこの１年、さらなる飛躍を心からご祈念を申し上げ、協会の更なる結束とまた発展をお祈り申し上げて、新年のご挨拶とさせていただきます。どうぞ今年もよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

九州経済産業局情報政策課
課長
田志　招則 様

ただ今、ご紹介をいただきました、九州経済産業局情報政策課の田志でございます。平成26年新年を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。それとともに、本日の新年例会が盛大に開催されますことを、心からお祝いを申し上げます。

先ほど森会長のお話にもございましたように、日本経済はようやくマイナスからプラスに転換しました。九州経済も緩やかながらでございますけども、持ち直してきたところでございますが、景気回復の実感は地方や中小企業、小規模事業者の方々には、十分浸透したとは言えません。地方の隅々にまで、この景気回復を実感として感じていただくようにすることが喫緊の課題になっております。この為、成長戦略を地域で確実に実施するために、現在九州沖縄地方産業競争力協議会というものができておりまして、この中で戦略産業の選定とアクションプランの検討がなされております。

九州の戦略産業といたしましては、現在、環境エネルギーや次世代自動車といったクリーンな分野、それから農林水産食品という分野、それから医療ヘルスケアという分野、で最後に観光という分野。この４分野を柱としまして、九州の成長戦略を３月までに取りまとめようという事で、検討がなされているところでございます。この九州の成長戦略の実現におきまして、情報通信技術は各分野の横断的な基盤技術という位置付けになるかと思います。

また、情報サービス産業は、これらの分野の成長エンジンとしての役割が期待されているところでございます。既にご承知のことと思いますけれども、我が国のITインフラについては急速なブロードバンドの普及に伴い、既に世界最先端の地位を獲得しています。しかしながら、ITの利活用の面を見ると、まだまだ遅れているということが言われています。この成長戦略、地域の成長戦略の実現を契機としまして、IT利活用の裾野を広げていただき、世界最高水準のIT利活用社会の実現が求められているところでございます。

大分県情報サービス産業協会におかれましては、持ち前の行動力と結束力でもって、それをいかんなく発揮されてIT利活用の幅を広げていただき、地域経済の活性化を牽引していただくことを、心より期待をしています。私ども九州経済産業局といたしましても、皆様と一緒に取り組んで参りたいと考えています。

最後になりますが、貴協会のご発展と本年がご臨席の皆様にとりまして輝かしい一年となりますことを、心よりお祈り申し上げまして、簡単ではございますが私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

平成25年度 特別講演会

演　題：「瀬戸内を活かしてきた大分の先人たち」
日　時：平成26年１月22日（水）16:00 ～ 17:30
場　所：トキハ会館　５階　ローズの間
講　師：一般社団法人大分学研究会
代表理事　楢本　譲司 様

皆さんこんにちは。大分学研究会の代表理事をしております、楢本譲司と申します。

私どもの研究会は、去年の11月３日に初めて大分県全体をエリアにした検定試験を行いました。名づけて『しんけん大分学検定』と致しました。

120点満点とし100点は一般の普通の問題です。３択であったり、記述であったり、○×というような問題を出したのですが、残り20点というのはスペシャル問題と呼んで、五感を問う問題としました。これは大変珍しいという事で、メディアの方からも非常に喜んでいただき、色々な所に報じられました。実はこれは大分合同新聞社と共同で主催したものですから、検定が終わった後に大分合同新聞の見開き２ページにこの一般問題100問が全部掲載されまして、ご覧になった方もいるかと思います。今日はその中よりいくつか問題を皆さんとクイズ形式でやってみたいと思います。

100問あるんですが、そのうちから６問ピックアップしました。

問題１． 大友氏が15世紀の初めころ、朝鮮、中国、明との海外貿易を始めますが、朝鮮貿易を最初に行ったのは誰でしょう？①大友能直（よしなお）、②大友持直（もちなお）、③大友義鑑（よしあき）。正解は②番です。なぜ大友氏はこういう貿易を明、中国、そして朝鮮半島と行ったかというと、博多を持っていたからなんですね。今年の大河ドラマは官兵衛で大分も盛り上がっていますが、前々回の大河ドラマ平清盛、あの時にも貿易の話が出てきました。

問題２． 大友宗麟が毛利元就との合戦に備えて新しく居城を築きました。その場所はどこでしょう？①大分の高崎山②臼杵の丹生島③津久見の保戸島。正解は、②臼杵の丹生島です。

問題３． 江戸時代に現在の大分県域にあった他国の飛地は熊本県域の熊本肥後藩、宮崎県域の延岡藩と長崎県域の何藩でしょう。これは地名なんですけどね、ご存知の方いらっしゃいますか。正解は島原藩です。

問題４． 佐伯藩八代藩主毛利高標（たかすえ）が学問を重んじて藩校四教堂（しこうどう）を創設するとともに国内外の図書を集めた文庫は何文庫でしょうか？正解は佐伯文庫です。

問題５． 江戸時代中期杵築藩の天文学者でコペルニクス、アインシュタインと並んで月のクレーターにその名が付けられている人物は誰でしょう？まずこれを言うと「えっ」そんな人が大分にいたのか？というのがほとんどの人の反応だと思います。私自身もこの事を知るまで「えっ」と思っていました。正解は麻田剛立（あさだごうりゅう）です。

問題６． 昨年夏ＮＨＫの土曜ドラマで「夫婦善哉」がありました。その最終回で、主人公の柳吉と蝶子が店を出した場所で昭和初期、別府随一の賑わいを見せていた場所を漢字二字で答えなさい。正解は流川です。

本題に入りたいと思いますが、大分がなぜ瀬戸内を使って発展したのかという具体的な話を少しいくつか例を見ていきたいと思います。

人口は明治初めの人口です。大分県は豊後の国、昔の国名で言いますと豊後の国と豊前の国の一部です。豊前の国とは宇佐郡と下毛郡です。今の市で言いますと中津市と宇佐市ですね。下毛郡がすべて中津市になります。それから宇佐市が宇佐郡ですね。この二つの郡を入れて豊後八つの郡が有ります。ですから合わせて十の郡だったんですね。もちろんその当時は市はありませんので、郡の中に町と村がある。町は大分とかいくつかしかない、ほとんどが村の状態だったのです。

明治初め一番人口が多かったのが当時の海部郡です。海部郡とはどこか？今でいうと大分の大在坂ノ市から佐伯の蒲江まで、県境なので豊後水道側を全部含めます。

二番目は大分郡です。今は由布市になりましたけれども挾間とか庄内とかも含んでます。大分が当時から中心だったのではと思いますが、人口は多くて10万人余りです。

三番目が国東郡です。東西の国東郡になりましたけれども今でいうと国東市と豊後高田市、一部かつての大分村というのが杵築市に入っていますが、国東郡は人口が９万人ほどでした。大分県全部で71万人あまりですから十の郡でわると一つの郡の平均が７万人余りですから、平均以上はこの三つの郡だけなんですね。で何が言いたいかというとこの時、国東郡と海部郡が東西と南北に分かれます。というのはそれだけ面積も広いんですが人口も多かった。やっぱりそこは海に面した国東郡もずっと豊後高田の所から杵築の所まで海岸線が長いです。もちろん海部郡の方がもっと長いです。大在から蒲江までですから大分の中の海の大半を占めている。だから海に面したところがいかに当時人口も多くて力があったか、ということを表しています。

歴史をちょっと古く見ますと、宇佐神宮はやはり特別なお宮です。

全国八幡宮の総本社であることはもちろんご存知だと思いますけれども、よく歴史の教科書とかに出てくるのが、和気清麻呂（わけのきよまろ）の話ですね。

やっぱり宇佐という地域、この地域が、当時の平城京、朝廷との関わりがあったからです。瀬戸内海を通じて地方政府との深い繋がりがありました。そして鎌倉時代になって、先ほど言いました、大友能直（よしなお）が、豊後の守護職になります。

今年の大河ドラマ官兵衛が始まるため、官兵衛のことと、宗麟のこともちょっと触れさせていただきたいと思いま

す。大友宗麟の時代に一番繁栄を極め、この府内の地、大分の地が、世界史的に見ても、非常に注目を集めた地だったんです。それはよく言われている事で、今大分市、特に釘宮市長が大友宗麟の検証というのを盛んにやっていますよね。

官兵衛の件でこの海との関わりを言いますと、官兵衛が大分に関わってくるのは多分今年のドラマで言うと、今はまだ姫路のあたりですね、これから信長に仕えて豊臣秀吉が出てきて、官兵衛が九州に関わってくるのは豊臣秀吉が九州に攻めてくるときです。大友氏が、島津から攻められて、大友宗麟が豊臣秀吉のところに、なんとかしてくれと頼みに行きます。その時に色々茶道具とか持って行ったと言われていますが、博多を通じた貿易で手に入れたんだと思います。そうしたら豊臣秀吉が、それじゃ俺も九州に攻めて行くぞってことで、本隊が豊臣秀吉の隊、もう１つの隊が弟の秀長で分れて九州に攻めてきますけれども、その先遣隊というか最初の隊で入ってくるのが、黒田官兵衛なんですね。

で、弟の秀長と一緒に、豊前から府内に行って、日向のほうに攻めていく。豊臣秀吉の隊は、九州に入った後、西側を通って、熊本のほうに入っていくというルートを取るんですが、その後、九州が収まった後、豊後の国は大友宗麟の子供の義乗に安堵されます。

黒田官兵衛が非常に功績があったというので拝でるのが中津なんですね。中津。多分ドラマでは夏頃くらいから始まるのかなぁ。このあたりがどう描かれるのかなと思います。今中津に行かれると官兵衛の件で非常に盛り上がっていて中津城を見てみますと官兵衛の時代に作った石垣とそのあと細川が入った時に作った石垣が少し違いますんでその違いが見えると思います。

官兵衛にちなんだものは中津には多くは残ってはいないのですがお寺で有名なのが合元寺（ごうがんじ）という赤壁の寺というのがあります。中津に官兵衛が入った時に豊前の国で、もともといた地侍といいますか地元の豪族といいますか侍であり農業をしていた人々が反乱を起こします。その首謀者の宇都宮鎮房（しげふさ）を、最後は中津城で殺します。中津城へ招くときに本人と何人しか入らせないで殺します。その時に合元寺というお寺に宇都宮鎮房の家臣が控えていたんですね。その寺で家臣たちもみな殺されました。殺した時に血が壁に飛び散ってそのあといくら壁を白く塗っても赤い血が浮き上がってきた、という伝説が残っています。それでやむなく壁の色を赤く染めたという話でございまして多分お聞きになったり、中津に行かれればそういう話を聞く機会があると思います。

官兵衛にとっては宇都宮鎮房と非常に厳しい戦いをした。だから中津の人に官兵衛が決まって良かったねと話すと、いや俺は宇都宮の一族だ、官兵衛は敵だとかいう人が今もいます、という話です。

なぜ中津城なのか？やっぱり海に面した情報を瀬戸内海から利用しようと。物もそうなんですが情報も海を伝ってきます。今の様に勿論インターネットも電話回線も何もありませんから人が何かを知らせる時に馬や走って行ってもかなりかかります。一番早いのは船です。だから何ヵ所かで船を置いて早船をついでいくと一番情報が早く入るため、どちらが先に情報を取るかが一番大事になる。それは官兵衛のドラマの中でも一番大きな話の一つで出てきますけど、有名な中国大返し（ちゅうごくおおがえし）、豊臣秀吉が織田信長の命を受けて毛利と戦って中国地方に攻めて来ますね。その時に信長が本能寺で明智光秀に殺される、でその話を相手方の毛利に知られないように自分が先に知って直ぐ和睦をして兵を引き返すという話ですね。情報として相手に知られるとそれは信長が殺されたら毛利にとってはこれ幸いということでどんどん攻め込んでくるんですけど、そういう情報が来る前に和睦するという、いかに早く情報を取るかというのが大事で今の世の中もそうだと思います。当時もそこが雌雄を分けるといいますか、正に生き残るかどうかということだと思います。そういう話の意味で中津をイメージしたところに官兵衛は目を付けて国、城を作りあげました。

最後に結論としては、この瀬戸内は海を使って大阪とかいろんな地域とつながっているからこそ、自由な流通を目指した地域の人たちが、地場産業が活躍することで、どんどん発展していった。その争いの中で、うまく海を使って、大分の人たちは生きてきたんじゃないかと思います。

やはり、これからの大分を考えた時に瀬戸内海を通じて、九州だけで考えた時はどうしても福岡とか熊本が中心になりますが、西日本全体で見ると、大分は大阪・関西圏とタイになって動けますので、九州全体を引っ張っていけるようになるゲートウェイになるのは、やはり海を使った活動だと思います。ただ船を使えということではございません。この瀬戸内のルートというのが非常に重要なのかな、大分の生きる道なのじゃないかな、というのが、実はこれまでの歴史を見た時に分かるんじゃないかなと。

歴史というのは、回顧主義で知ってるだけじゃないんです。生涯の生き方、過ごし方に活かしてこそ、意味があるんじゃないかと思います。

どうもご清聴ありがとうございました。

（総務委員会）

当日は樽本代表理事様よりたくさんの内容のご講演がありました。

紙面の都合上、今大河ドラマで話題の黒田官兵衛のお話を中心に掲載させていただきました。

このほかにも、日本の先端産業を支えた佐伯干鰯（ほしか）、府内藩の藩政改革等大変貴重なお話がありました。

第63回 別府大分毎日マラソン 社会貢献活動参加

平成26年２月２日（日）、第63回別府大分毎日マラソン大会が開催されました。

高崎山・うみたまご前をスタートして、別府市亀川で折り返して大分市営陸上競技場でフィニッシュするこの大会は、マラソンランナーの登竜門として全国的に定着しています。

別府大分毎日マラソン大会への当協会の給水ボランティアとしての参加は、今年で３回目となります。当協会からの参加希望者は年々増えており、今回は20社155名が参加、ボランティアに参加した団体の中では最大規模となりました。

ボランティアに参加すると、オリジナルのウインドブレーカーや帽子がもらえるのも魅力ですが、なんといっても、伝統ある地元のマラソン大会に一緒に参加する誇らしさがあります。給水の場面で、全国放送のテレビに映る方も多くいますので、話題性も豊富です。大会を運営する一員として参加することで、ますます地元に愛着が湧いてきます。

また、トップランナーの無駄を排除した肉体美、走る姿の美しさやスピード感は、真近で見た人にしかわからない大きな発見です。レース終盤では、ゴールに向けたランナーの懸命な表情に心打たれ、多くの人たちが自然と大きな声援や拍手を送っていました。ボランティアに参加することで、毎年感動を与えてもらっています。

総務委員会では、来年も社会貢献活動の一環として、マラソン給水ボランティアを企画します。今年の11月に募集を開始しますので、たくさんの方に参加いただき、新たな感動を味わっていただきたいと思います。

（総務委員会）

平成25年度　第2回視察研修旅行

平成25年度第２回視察研修旅行が、平成26年１月24日（金）に参加13社20名で実施されました。

今回は、株式会社安川電機（福岡県北九州市八幡西区）、古河電工産業電線株式会社九州工場（福岡県北九州市門司区）を視察しました。

株式会社安川電機では、会社概要の説明（ＤＶＤ鑑賞）後、世界№１のロボット生産拠点であり世界水準の技術力を持つモートマンセンターのロボット生産ラインを見学しました。生産されているロボットは主に産業用ロボットですが、医療用・福祉用ロボットの開発生産も行っているとの事でした。また、工場は第１から第３工場まであり、今回は第１工場と第２工場を見学しました。第１工場では小型ロボット（20kgまで）を生産し、第２工場では大型ロボットを生産しているそうです。ロボットの価格は大型で１体当たり2,000万円程度、小型で１体当たり300～400万円程度との事でした。工場見学後は、ロボットによるデモンストレーションを見学しました。

古河電工産業電線株式会社九州工場では、会社概要の説明（ＤＶＤ鑑賞）後、高圧ケーブルを中心に日本で２社しか製造していないゴムケーブルや航空照明用ケーブルと国内で７割のシェアを占める舞台照明用ケーブル並びに水中モーター用のケーブルを製造している工場の製造ラインを見学しました。

（企画委員会）

㈱安川電機正面玄関にて

古河電工産業電線㈱正門前にて

㈱安川電機でロボットのデモンストレーションを見学

古河電工産業電線㈱にて会社概要の説明を受ける

OISAニュース原稿募集のご案内

最近の身近な話題、趣味、特技等の原稿を募集しています。

申　込　先＊OISA広報委員会事務局　大銀コンピュータサービス㈱　田崎貴裕
TEL 097－537－4531　FAX 097－534－4545
Mail　dcsttasa@oct-net.ne.jp

「大分トリニータ応援歌」贈呈式

今季初の大分トリニータホームゲームが平成26年３月９日（日）、大分銀行ドームにて開催されました。その際、当協会主催の第22回サウンズコンテストにおきまして大分トリニータ応援歌部門で最優秀賞に選ばれた吉野伸哉さん（日本文理大学）の作品『We Love Trinita』が大分の地元アイドルグループ「SPATIO」により披露されました。

（イベント委員会）

森会長から青野社長へ目録贈呈

吉野伸哉さんによるスピーチ

「SPATIO」による曲の披露

フレッシュさん紹介　よろしくお願いいたします。

株式会社オーイーシー
ライフソリューション部

佐々木　瑠里

趣味：ショッピング
好きな言葉：初心を忘れず

昨年４月に入社した当時は、文系出身という事もあり、全てが一からの習得で思い悩む日が続いていましたが、優しく頼りになる先輩方のおかげで一つ一つ壁を乗り越えていく事ができました。
又、何事も諦めずに取り組む事で、答えや結果を見つける事が出来る事を知り１年前の自分と比べると、あらゆる面での成長を実感できる様になりました。
現在は自治体向け健康管理システムのプログラム開発を担当しており、微力ながらも会社に貢献出来つつある事で、少しずつではありますが自信もついてきました。
まだまだ思う様に進められず、悔しい思いをする事は多々ありますが、これからも周囲の方への感謝の気持ちを忘れずに、日々精進していきます。

モバイルクリエイト株式会社
営業部　営業２課

今川　直樹

趣味：スポーツ観戦
好きな言葉：義を見てせざるは勇無きなり

昨年の９月に大学を卒業し、今年の１月に入社しました。現在は営業部の社員として必要な知識や、お客様に対する営業手法について学ぶため、外回りの同行や社内での事務処理等を行っています。
入社当初は移動体通信事業という馴染みがない事業分野に、右も左もわからない状態でしたが、日々の業務、上司や先輩方の指導を通じ、少しずつではありますが事業の概要、又営業について理解できてきました。
当社製品は主に代理店様経由でお客様に販売しています。そのため、代理店様へのフォローはもちろん、代理店様からの信頼獲得が不可欠です。
まだまだ半人前ですが今後一日でも早く代理店様、お客様から信頼される様な人材、又会社の戦力となり、業務拡大に貢献できる様、日々の業務に取り組んでいきたいです。

㈱アトムス
システムソリューション営業部

安部　秋博

趣味：ドライブ・パズル
好きな言葉：艱苦奮闘

昨年専門学校を卒業し、４月に社会人になってから早１年が過ぎようとしております。
営業としてもまだまだ未熟で周りの先輩方に助けていただいてばかり、悪戦苦闘の毎日です。
直接人と関わる今の仕事に就いてから、お客様に自分の思っている事をそのまま伝えるのがどんなに難しいか実感しました。
お客様に提案を行い、喜んでいただいた時や、お役に立てた時は、毎回達成感に似た充実感を得られます。
日々の営業活動の中で、お客様の役に立てる情報にアンテナを向け、常に前向きな気持ちで今後共、仕事に向き合って行きたいと思います。

掲載記事のお詫びと訂正

「OISA NEWS」61号に掲載いたしました「第17回技術研究会発表会開催」（紙面４ページ）に誤りがございました。御本人様を始め、関係者の皆様にはご迷惑をおかけ致しましたことをお詫びいたしますとともに、以下の通り訂正させていただきます。

誤）助教授　池部　実氏
正）助教　　池部　実氏